

適切な水管理と病害虫防除を！

8月 日	上旬		中旬		下旬		
	1	5	10	15	20	25	30
生育	出穂期		傾穂期		乳熟期		
水管理	湛水管理：カドミウム吸収抑制対策					間断かん水	
作業			カメシ防除		カメシ防除		
	薬剤防除後1週間以内 農道・畦畔草刈り ← 休耕田・法面 草刈り禁止期間 →						

1 7月25日現在の生育状況

- 7月25日現在の生育は、草丈は平年比105%と長く、茎数は平年比85%と少なく、葉数は平年差+0.4葉と多い状況です。
- また、葉色は、7月5日以降低下しており、25日現在は平年比98%とやや淡くなっています。
- 7月25日時点で、減数分裂期（葉耳間長±0）に達しているほ場は、調査ほ場5地点中1地点でしたが、5月20日頃に田植えを行ったほ場では、7月27日前後には減数分裂期（葉耳間長±0）を迎えるものと推定されます。
- また、出穂期は、あきたこまちで生育の早いほ場では8月1日頃、5月20日頃に田植えを行ったほ場では8月6日前後の出穂と推定されます。

表1 水稻定点調査結果(農業振興普及課)

	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数 (葉)	葉色 (SPAD)
本年	75.0	455	12.6	37.2
平年値	71.5	537	12.2	37.8
平年比	105%	85%	+0.4	98%

品種：あきたこまち、管内5カ所平均

2 水管理～ 8月25日頃までの湛水管理でカドミウム対策を～

- カドミウム吸収抑制対策として、湛水管理を実施します。
- 湛水管理を行うことで田面が空気に触れないように保ち、還元状態にすることでカドミウムの溶出を抑え、水稻に吸収されるのを防ぐことができます。

3 病虫害防除 ～2回防除と草刈りで斑点米カメムシを徹底防除～

①いもち病（穂いもち）

- BLASTAM（アメダス）の判定では、管内では、7月1、13、18、19、20、23日に感染好適条件が観測されました。
- 葉いもちの発生が確認されるほ場では、出穂15～7日前にコラトップ剤またはゴウケツ粒剤（サンブラス粒剤）のいずれかを散布するか、出穂直前にビーム剤（またはトライフロアブル）と穂揃期にラブサイド剤（またはトライフロアブル）の茎葉散布を行います。

②斑点米カメムシ

- 病虫害防除所の調査によると、本年は、県内全域で斑点米カメムシ類の発生が確認されており、畦畔に出穂しているイネ科雑草が多いほ場で、斑点米カメムシ類が多数確認されています。このため、本年の薬剤防除は、出穂期10日後頃（スタークル剤）と出穂期24日後頃（キラップ剤）の2回防除を基本とします。
- 農道・畦畔の草刈りは出穂10～15日前を目安に一旦終了し、出穂10日後頃の1回目の薬剤防除の後（1週間以内）に、農道・畦畔の草刈りを1度行います。これにより、散布した薬剤の効果を高め、効率のよい防除ができます。その後は収穫2週間前（9月上旬）まで草刈りを中断してください。（下図参照）

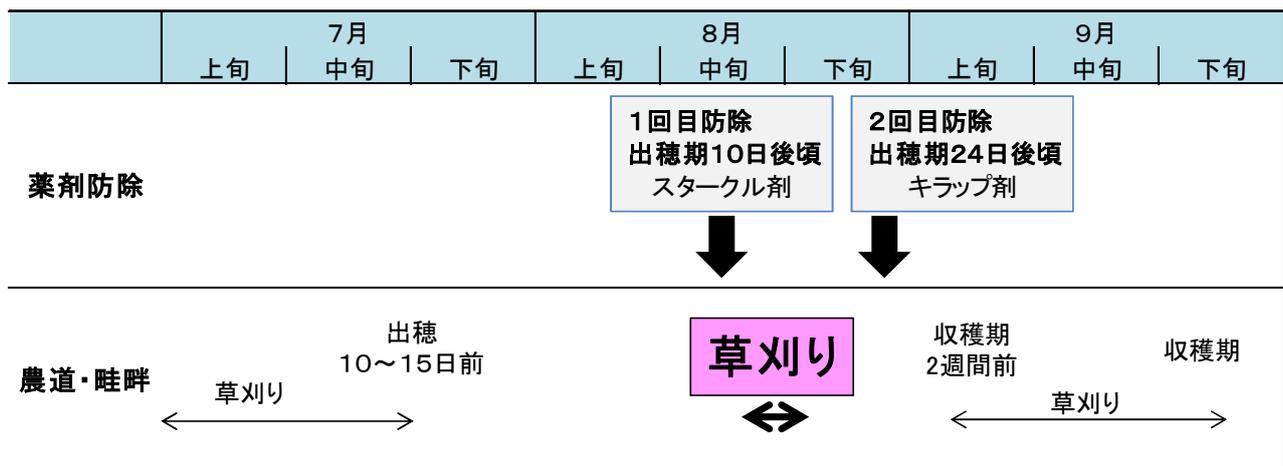


図 斑点米カメムシ類の薬剤防除と耕種的防除